

平成 28 年度 第 8 回武蔵野市環境市民会議 議事要録

日時 平成 28 年 12 月 13 日 (火) 18 時 30 分開会  
 場所 武蔵野市役所 412 会議室  
 出席者 委員 15 名、事務局 4 名  
 (委員：大江委員長、鈴木副委員長、一之瀬委員、伊藤委員、落合委員、小林委員、清水委員、首藤委員、力元委員、中野委員、西上原委員、花俣委員、松岡委員、三浦委員、郡委員)  
 内容 新委員紹介  
 生物多様性基本方針 (案) について  
 二俣尾実地研修について  
 その他

生物多様性基本方針 (案) について

| 発言者 | 要旨   |
|-----|--|
| 委員長 | 生物多様性基本方針についての議論は今回 3 回目になるので深めていきたい。<br>後で実地研修の報告もある。<br>基本方針のスケジュールとしては、今年度中に方針を固めることになっている。   |
| 事務局 | (資料 1 「武蔵野市生物多様性基本方針 (案) について」説明)  |
| 委員長 | 前回までの意見をいただいて修正したものを配付している。この案をひとつの土台としてまとめていきたい。全委員より意見をいただきたい。   |
| 委員  | 23 ページ武蔵野市の弱み・課題の中の、「他自治体や都、各教育機関との連携が不可欠であること」という項目の中に、成蹊学園が抜けている。成蹊学園は市内でも重要な緑地を持っており、学園との連携は外せないと考える。アジア大学が緑地を持っているかどうかについては詳しくないため、不明である。<br>この部分は、27 ページの「Ⅲつながる・つなげる」にも関わってくる。<br>また、案の中に中島製作所が出てくるが、固有名詞の指摘として、工場の名前は「武蔵工場」「武蔵製作所」と、武蔵野の「野」がなかったと思う。 |
| 委員長 | 2 点について事務局から説明等あるか。  |
| 事務局 | 固有名詞については確認する。<br>成蹊学園について指摘があった点については、「他自治体や都、各教育機関との連携が不可欠であること」では、市境付近にある主要な教育機関等で、他区市側に位置しているものについて言及している。当然成蹊学園を始めとする市内の教育機関等とも連携するが、市内にある教育機関については、ここでは記述していない。  |

|      |   |
|------|---|
| 委員   | 意図は理解したが、市内中心部の機関についても記載してほしい。  |
| 委員長  | 市内中心部の機関についても入れた方が良く。亜細亜大学はまとまった緑はない。   |
| 委員   | 市内の主要企業である横河電気が工場売却し、その跡地に大きなマンションができた。工場は空き地が多かったので、マンションができたことによって景色が変わった。  |
| 委員   | 先ほど出てきた中島製作所の工場名を調べたら、「中島飛行機武蔵野製作所」となっている。  |
| 委員長  | 全体の記述や細かいところの指摘あるか。   |
| 委員   | <p>22 ページ以降に SWOT 分析を一部掲載しているが、結論は武蔵野市独自のものというよりも、府中市の結論に近い。22 ページに記載されている市の強みや機会をどのように武蔵野市の生物多様性の大きな柱とするか記載した方が良く。生物多様性に関する市の特色や組織はいくつもあるが、つながりが見えない。</p> <p>また、細目を書く場合は、数値化できる部分は数値化すると良い。</p> <p>加えて、NPO を含めた市内の組織も優れているのでネットワーク化して持っている資源を統合化するという部分を付け加えれば良い。せっかく強みや機会を書いたのだから、危機から守るだけではおかし。24 ページの前に 1 ページか 2 ページその部分を付け加えると良い。これだけ優れた潜在能力、市民の力をアピールすれば、はるかに他自治体の方針を超えることができる。</p> |
| 委員長  | 府中は大きな方針を定めている。数値はまた別の計画等で出した方が良くかもしれない。  |
| 委員   | <p>今は守ることが精一杯で、増やすよりも減少を食い止めることが優先。「まもる・そだてる」は市の問題意識に近い。</p> <p>緑は減少し、活動者も高齢化している。スタンスとしては保守的ではなく、市民と一緒にやっていきたいと思っているが、保守的に見えるので記載方法は考えていきたい。</p> <p>これから武蔵野市の環境啓発を一元化していく動きがあり、環境啓発施設を作ろうとしている。そこに環境の一元的機能を持たせようと思っている。一貫性がないということはこれから乗り越えていきたい。これらの点については、あるべき姿に書いた方が良く。</p>   |
| 副委員長 | <p>全体としては他の自治体に比べて特徴が出ている。種が多様であればいいという考え方からさらに充実したものになった。</p> <p>1 ページ目の生態系ピラミッドは欧米的であり、上下関係に見える。日本人は輪廻や循環など仏教的なものに優れているので循環を取り入れられると良く。</p>   |

|     |   |
|-----|---|
|     | <p>上下関係を強調しない図もほしい。</p> <p>2 ページ目はとても良い。サービスの概念が最初に出ており、工夫されてわかりやすくなっている。</p> <p>8 ページから武蔵野市が出てくる。3 次元に加えて4次元で出てくるのが良い。地域イメージを彷彿とさせるのは良い。13 ページが味気ないので空中写真や航空写真を合成して地図を表現すると良い。</p> <p>武蔵野台地の位置をどこまで広げて考えるかだが、富士山の噴火からできたマクロなところから考えると良い。</p> <p>21 ページの生物種の数、直感からすると少ない気がする。ただこの調査は、全域で行うことは不可能なので、どうしても抜き取り調査になる。調査で漏れた種がたくさんあり、実際より種数が少なく見えてしまうのは仕方がない。</p> <p>これから武蔵野市が行う生物調査にはガイドラインが必要である。思いつきで調べることを繰り返すことは良くない。定点観測が良い。鳥と昆虫と植物では調査方法が違う。どのポイントを調べるかが毎年変わると比較できない。各地区で代表の地区を選んで継続的に調べる等すると良い。その中の生物種がどのように移動しているか。固定して調査が必要。</p> <p>現状認識について正確かつ継続的にできるものが元にないと伝えることができない。</p> <p>「わかる・つたえる」の項目については、子どもへの活動を重視してほしい。学研のノートからも昆虫が消えてしまった。子どもにも生き物に親しむ機会をあげたい。それは指導者を育てることと対である。教えることは教わることになる。やりとりのできる世代的な伝達を理解できると良い。</p> |
| 委員  | <p>23 ページの弱み・課題について、武蔵野市は狭小な範囲であり、バラエティには富んでいない。そのなかで生物多様性をどう考えるか。それは弱みではない。前提条件の自然環境にもう少し触れておかないと、他の人が見た時にわからない。</p>   |
| 委員長 | <p>都市化した中での環境問題という視点は重要だと思う。昭和 46 年からの緑のネットワーク計画は素晴らしい。逆に言えば緑の面を取りようがない。点と線で面を補うことになる。それは強みであるとともに、弱みである。前提条件のなかで最大限に自然的なところを守り増やす。その辺もわかるように記載できると良い。</p>  |
| 委員  | <p>28 ページの身近な取り組みはとても大事だと思う。今後の現状認識や調査も私たちの使命である。同ページの2点目の、生き物に配慮した商品というものが唐突に出てくる。油を下水道に流さない、ポイ捨てしないということはよくわかるが、唐突にこれまで出てこなかった文言が出てくることに、違和感を覚える。市から発信したいその他の注意点として載せれば良い。</p>  |

|      |   |
|------|---|
|      | <p>8ページのグラフについては、縦軸と横軸を入れ替えた方が良いのでは。</p> <p>12ページの写真は、少し前の写真になっている。これからさらに改善する予定か。他との比較もないので、何を意図しているかわからない。補記できると良い。</p>   |
| 委員   | <p>身近な取り組みの例は、大事な取り組みと身近な取り組みを分けた方が良いかもしれない。唐突感は確かにある。</p> <p>写真はカラーになったらわかるようになるか。比較できると良い。グラフについては事務局の意図もあったと思う。</p>  |
| 副委員長 | <p>グラフは10ページと関連している。高度成長のときに緑被率が減っているが、絶対値はかわっていない。8ページのグラフは変わっていない緑の絶対量の中で比率が変わっていることを示している。並んでいるとさらに良い。</p>   |
| 委員   | <p>雨水浸透ますは以前から関心があった。浸透ますをつける理由について、地下水が減少しているためと聞いたことある。地下水はなぜ減少しているのか。仙川は、以前は、普段から水が流れていたが、今は晴れているときは流れていない。理由は元の池が干してしまったので流れなくなったとのこと。井の頭公園の池も、以前は勝手に地下水が湧いていたが、今は無理やり水をポンプで上げている。その原因は、地下水が減っていることにあると聞く。浸透ますや浸透するアスファルトを使うことによって、地下水を復活できるのではないかとされている。</p> <p>浸透ますについて記述するのであれば、仙川や井の頭池のことも記述すると良い。</p> <p>外来種ということでミシシippアカミミガメについて記載されている。一般の方の間ではミドリガメという名称の方が使われていると思う。環境省も通称名を併記しているので、加えると良い。</p> <p>ミシシippアカミミガメが緊急対策外来種に指定されているということは、生態系被害防止外来種リストが元になっている。外来生物法が元になっていると思うため、出典・根拠をあげたほうが良い。付随して、16ページの「要注意外来生物」は、環境省で平成27年に解消されており、「生態系被害防止外来種」に移行している。改めた方が良い。</p> |
| 委員長  | <p>記載については事務局でチェックしてほしい。</p> <p>24ページの②は書き方がわかりづらい。主語述語がとりづらい。</p>  |
| 委員   | <p>26ページの小中学校における自然学校学習に記載されているセカンドスクールは、教育課程に位置付けられたもので、課外活動ではない。</p> <p>これからの武蔵野市を背負って立つ子どもたちが理解して考えて行動できるようになることはとても大切である。今の子どもたちにどのように教えるかが大切である。自然環境学習は現在も行われている。1～2年生はアサガオやミニ</p>   |

|      |  |
|------|--|
|      | トマト育てたり、4年生は総合でグリーンカーテンを育てたりして、なぜそれ<br>がいいことなのか考える。武蔵野市は小学校と中学校のつながりが弱い。小・<br>中一貫教育を検討する過程で教育委員会も言っているが、「市民科」という市民<br>性を高める教科をカリキュラムでつくる動きがある。環境などのことを子ども<br>たちが考えて、武蔵野市の良さをどう守り育て発展させるかを考え、行動でき<br>る大人になっていくかを教えていくことの必要性を考えるとここの記述が弱<br>い。大事に扱ってほしい。 |
| 委員   | 施策の方向性が今のままの括りで良いか。  |
| 委員   | 市民科の中に環境のことを位置付けて学んでいくことを入れることが大切。今<br>なら入れられる。今からやっていくことで、市民性を高める。武蔵野市を大事<br>にすることに繋がっていく。様々な書き方ができる。   |
| 委員長  | 小・中学校についての記述と NPO との連携を入れたら違和感があるか。サイエ<br>ンスフェスタのようなかたちで連携している NPO もある。より幅を持って環境<br>だけではなく科学全般などいろいろな視点から書けると良い。   |
| 委員   | 実施の過程で学びを提案することは可能。機会を使いながら学ぶ。   |
| 委員長  | 行政と市民の多様なネットワークによりつながるきっかけとなると良い。  |
| 委員   | 子どもの活動が大事。その活動によって指導者も育てることができる。子ども<br>の未来の活動をどうするか、もっと大きくとらえないと書き方が小さくなる。   |
| 副委員長 | 29 ページ最後がもったいない。自分で勉強することが多いので、生物多様性セ<br>ンターのアドレスや代表的なサイトのリストや NPO のリストや催し等、個々の<br>人が検索できるキーワードのリストを列挙すると良い。完全に解説されていな<br>い部分をカバーできる。<br>シンポジウム等を探すことのできるアドレス帳・ヒントのようなものになると<br>良い。  |
| 事務局  | 資料編については検討中である。用語集をつける可能性はある。  |
| 委員長  | 検索情報を含め、情報用語集みたいなもの考えてもらいたい。   |
| 委員   | 詳細を見たい人はアドレスで見た方がいい。   |
| 委員長  | 出処を出してほしい。   |
| 事務局  | 具体的な強みや課題は 25 ページの各論に反映している。   |
| 委員   | 各論では市民にはわからない。24 ページにこそ強みや機会を入れた方がわかり<br>やすい。情報を統合化したものが入っていると良い。それがないと、22 ページ<br>の意味が一般にはわからない。<br>リーダーを育てたり、子どもを育てたりしたときに何を成果とするか書いた方<br>が良い。市として、我々としては何を求めるかが漠然としている。具体化でき<br>るものであれば市民もわかりやすい。子どもたちに教えるべき明確な成果は何                                  |

|     |  |
|-----|--|
|     | か。体験したからそれでいいという話ではない。生物多様性は目に見えないので、市民は危機とは思っていない。何が今、生物多様性の危機なのか。「つたえる・そだてる」場合に何を成果とするか、数値化できると良い。             |
| 委員長 | 目標は不可欠であるが、数値化できるものとできないものがある。ボリュームが限られているのでこの中では文章化するしかないが、今後個別計画などに入れていくことは視野に入れているか。                          |
| 委員  | 10年20年動かないものを作るときは、抽象化したものになる。数値を入れると達成した時にその方針が終わってしまう。具体的なものは、たとえば行動計画に数値化して入れる。<br>22ページに関連性がないのはわかるので、工夫が必要。 |
| 委員  | 事業者の立場として市にどう貢献できるか考えた。自然環境を守る活動、人を育てる活動について事業所として考えなければならない。持っている森を事業所に紹介するなどできないかと思う。                          |
| 委員  | 今回の方針案武蔵野市のユニークさが出せている。他の委員から出た意見を盛り込むとさらに良いものになる。   |
| 委員長 | 本方針において、「市民・事業者・行政」の事業者の部分が薄い。何か取り入れたい。  |
| 委員  | 会社の構内の中に木々がある。それを守っていく。周りと一緒に事業者としてやっていきたい。  |

環境市民会議（第7回） 二俣尾実地研修について

| 発言者 | 要旨  |
|-----|---|
| 事務局 | (資料2「二俣尾実地研修について」報告)  |
| 委員長 | 出席していた委員から感想を求めたい。  |
| 委員  | 市は広報活動が下手だと感じた。やっていることは良いことなので、もっと広報したら良い。あらゆるツールで、市報以外でもっと知らせれば良い。 |

その他

| 発言者 | 要旨                     |
|-----|------------------------|
| 事務局 | (次回日程、今後のスケジュールについて説明) |